

# Eurovision Song Contest ユーロビジョンソングコンテスト



DEEP ACID

2018/06/17

# ユーロビジョンソングコンテストって何？

1956年から始まった、欧州放送連合 (European Broadcasting Union, EBU) が主催するソングコンテスト。欧州放送連合は基本的に公共放送の連合。歴代の優勝者で有名になっアーティストは、アバ、セリーヌ・ディオーンなどがいる。

ちなみに、アジア地域でもアジア・パシフィック・ソング・コンテストが計画されたが、立ち消えた模様である。

# コンテストの形式

欧州放送連合参加国からの予選を通過した参加国代表が競う形式。初回のみ1国2曲がコンテストにエントリーできたが、それ以降は1国1曲のみのエントリー。

# これまでの参加国リスト

- アイスランド
- アイルランド
- アゼルバイジャン
- アルバニア
- アルメニア
- アンドラ
- イギリス
- イスラエル
- イタリア
- ウクライナ
- エストニア
- オーストラリア
- オーストリア
- オランダ
- キプロス
- ギリシャ
- クロアチア
- サンマリノ
- スイス
- スウェーデン
- スペイン
- スロバキア
- スロベニア

# これまでの参加国リスト

- セルビア
- セルビア・モンテネグロ
- チェコ
- デンマーク
- トルコ
- ドイツ
- ノルウェー
- ハンガリー
- フィンランド
- フランス
- ブルガリア
- ベラルーシ
- ベルギー
- ボスニア・ヘルツェゴビナ
- ポーランド
- ポルトガル
- マケドニア共和国
- マルタ
- モナコ
- モルドバ
- モロッコ
- モンテネグロ

# これまでの参加国リスト

- ユーゴスラビア
- ラトビア
- リトアニア
- ルーマニア
- ルクセンブルク
- ロシア

# 参加国はヨーロッパに限らない

参加の出入りが激しいので一定しないが、2018年は43ヶ国。ヨーロッパに限らず、トルコやイスラエルなどアラブ圏も参加。また、ソ連崩壊後、西アジア、中央アジアからも参加国が増加。オセアニア圏も参加している。欧州放送連合はあくまでも放送連合であり、EUやNATOなどの政治的な結びつきとは異なるものである。

# レコード大賞やグラミー賞との違い

レコード大賞やグラミー賞はその国国内の音楽市場に基づくが、ユーロビジョンコンテストは国際的なイベントのため、特定の国の音楽市場に左右されず、純粹に参加各国の投票で決められる(自国アーティストには投票できないルール)。

また、全てのアーティストが大会会場でパフォーマンスを披露する(ロパク不可)。



# 音楽のオリンピック？

クラシック系の演奏コンクールを除けば、最も参加国の多い音楽コンテスト。

- オリンピック同様、大会会場が参加国の持ち回り制となっている。第1回の1956年はスイスのルガーノ、最近の2018年はポルトガルのリスボン。
- 国内での予選を勝ち抜き、各国の代表として本選に臨む、という形式も音楽オリンピックの側面が強い。

# 「歌」のコンテスト

歌のコンテストと言う性格上、ポップスが強く、ロックは不利(バンドも、6人まで、と言う制限がある)。そんな中、2006年の優勝曲が唯一のヘヴィメタロック、しかもフィンランド唯一の優勝曲。

その意味では、音楽賞と言うよりもプロ歌手による“のど自慢”のイメージ(もちろんプロなのでコピーではなくオリジナル曲で争う)。なので、出場アーティストの歌唱力はお墨付き。バラード好きには名曲が並ぶ。

# ビジュアル重視

テレビ放送局の番組として行われるコンテストゆえ、ビジュアルが大事になる。その意味ではヨーロッパの紅白と言っても良い。以前、ヒゲの美人歌手が話題になった(2014年・コンチータ・ヴルストfrom Austria)が、小林幸子の豪華絢爛衣装のようなもの。

# 実は「昭和」は欧州ポップスで できている

昔の優勝曲を聞くと、日本では知られていない楽曲が多いにも関わらず、昭和の雰囲気を感じる。実際、昭和30年代の江利チエミ、ザ・ピーナッツや越路吹雪などの洋楽ポップスブームの色合いにも似ていて、昭和がヨーロッパとつながっていることが分かる。

# 言語について

- ・コンテスト開始当初は参加国も少なく、オランダ語やフランス語の楽曲が優勝していた。
- ・当初は言語の規定がなく、1966年に参加国それぞれの“公用語”での参加が義務付けられていた。
- ・1973年に規定を解除、1977年にふたたび公用語の規定が復活。
- ・1999年に再度解除、現在に至る。
- ・その結果、国際化してきて英語曲が増えているのは否めない。逆に言えば、非英語圏の国が英語で歌うことで、優勝のチャンスが増えたとも言える。

個人的なコンテストに対する思い

# 20世紀の個人的なコンテストに対する思い

若い頃は一時、英米以外の音楽に触れる(特にフランス)機会としてコミットしたこともあるが、

- 日本で音源が売られていない。
- 当時のNHK-FMはシャンソンやカンツォーネをターゲットとした音楽番組があり、非英米の音楽にアプローチするにはそちらの方が便利。
- 当時のパンクやテクノポップと言った流行から全く縁遠い楽曲が多く、興味をそそられなかった。


# 21世紀の個人的なコンテストに対する思い


- 一方、現代になると、ヨーロッパ以外に西アジアや中央アジアの音楽シーンに触れることのできる貴重なチャンスとしてとらえるようになった。
- 流行に左右されていないことで、今聴いても色褪せない良質なポップスが輩出されている。



# 過去の優勝曲リスト

<https://www.youtube.com/watch?v=tUH8VMBmXyk>

年	国	楽曲	アーティスト
<a href="#">1956</a>	スイス	リフレイン <a href="#">"Refrain"</a>	<a href="#">リス・アジア</a> Lys Assia
<a href="#">1957</a>	オランダ 	<a href="#">"Net als toen"</a>	<a href="#">コリー・ブロッケン</a> Corry Brokken
<a href="#">1958</a>	フランス	お眠り、恋人よ <a href="#">"Dors mon amour"</a>	アンドレ・クラヴォー <a href="#">André Claveau</a>
<a href="#">1959</a>	オランダ	<a href="#">"Een beetje"</a>	テディ・ショルテン <a href="#">Teddy Scholten</a>
<a href="#">1960</a>	フランス	<a href="#">トム・ピリビ</a> "Tom Pillibi"	ジャクリーヌ・ボワイエ <a href="#">Jacqueline Boyer</a>
<a href="#">1961</a>	ルクセンブルク -	二人は恋人 <a href="#">"Nous les amoureux"</a>	ジャン＝クロード・パスカル <a href="#">Jean-Claude Pascal</a>
<a href="#">1962</a>	フランス -	はじめての愛 <a href="#">"Un premier amour"</a>	<a href="#">イザベル・オーブレ</a> Isabelle Aubret
<a href="#">1963</a>	デンマーク	<a href="#">"Dansevise"</a>	グレーテ & ヨルゲン・イングマン <a href="#">Grethe &amp; Jørgen Ingmann</a>
<a href="#">1964</a>	イタリア	夢見る想い <a href="#">"Non ho l'età"</a>	<a href="#">ジリオラ・チンクェッティ</a> Gigliola Cinquetti
<a href="#">1965</a>	ルクセンブルク	<a href="#">夢見るシャンソン人形</a> "Poupée de cire, poupée de son"	<a href="#">フランス・ギャル</a> France Gall

	<a href="#">1966</a>	オーストリア -	メルシー・シェリー <a href="#">"Merci Chérie"</a>	ウド・ユルゲンス <a href="#">Udo Jürgens</a>
	<a href="#">1967</a>	イギリス	恋のあやつり人形 <a href="#">"Puppet on a String "</a>	サンディー・ショウ <a href="#">Sandie Shaw</a>
	<a href="#">1968</a>	スペイン	ラ・ラ・ラ <a href="#">"La, la, la"</a>	マシエル <a href="#">Massiel</a>
1969 <sup>[注 2]</sup>		オランダ 	トルバドール <a href="#">"De troubadour"</a>	レニー・クーア <a href="#">Lennie Kuhr</a>
		フランス	リラの季節 <a href="#">"Un jour, un enfant"</a>	フリーダ・ボッカラ <a href="#">Frida Boccara</a>
		スペイン	<a href="#">"Vivo cantando"</a>	サロメ <a href="#">Salomé</a>
		イギリス	恋のブンバガバン <a href="#">"Boom Bang-a-Bang"</a>	ルル Lulu
	<a href="#">1970</a>	アイルランド	若葉の季節 <a href="#">"All Kinds of Everything"</a>	ダナ <a href="#">Dana</a>
	<a href="#">1971</a>	モナコ	明日に夢みて <a href="#">"Un banc, un arbre, une rue"</a>	セヴェリーヌ <a href="#">Séverine</a>
	<a href="#">1972</a>	ルクセンブルク	思い出に生きる <a href="#">"Après toi"</a>	<a href="#">ヴィッキー</a> Vicky Leandros
	<a href="#">1973</a>	ルクセンブルク	愛は美しく <a href="#">"Tu te reconnaîtras"</a>	アンヌ＝マリー・デヴィッド <a href="#">Anne-Marie David</a>
	<a href="#">1974</a>	スウェーデン	<a href="#">恋のウォータールー</a> <a href="#">"(Waterloo)"</a>	<a href="#">ABBA</a>
	<a href="#">1975</a>	オランダ	愛の鐘の音 <a href="#">"Ding-a-dong"</a>	ティーチ・イン <a href="#">Teach-In</a>
	<a href="#">1976</a>	イギリス	思い出のラスト・キス <a href="#">"Save Your Kisses for Me"</a>	ブラザーフッド・オブ・マン <a href="#">Brotherhood of Man</a>

<a href="#">1977</a>	フランス -	鳥と少年 <a href="#">"L'oiseau et l'enfant"</a>	マリー・ミリアム <a href="#">Marie Myriam</a>
<a href="#">1978</a>	イスラエル	恋はアバニビ <a href="#">"A-Ba-Ni-Bi"</a>	イズハール・コーヘン & ジ・アルファベータ Izhar Cohen & the Alphabeta
<a href="#">1979</a>	 イスラエル	<a href="#">"Hallelujah"</a>	Gali Atari & Milk and Honey
<a href="#">1980</a>	アイルランド	<a href="#">"What's Another Year?"</a>	<a href="#">ジョニー・ローガン</a>
<a href="#">1981</a>	イギリス	夢のハッピーチャンス <a href="#">"Making Your Mind Up"</a>	<a href="#">Bucks Fizz</a>
<a href="#">1982</a>	ドイツ	<a href="#">"Ein bißchen Frieden"</a>	<a href="#">Nicole</a>
<a href="#">1983</a>	ルクセンブルク	<a href="#">"Si la vie est cadeau"</a>	<a href="#">Corinne Hermès</a>
<a href="#">1984</a>	スウェーデン	<a href="#">"Diggi-Loo Diggi-Ley"</a>	<a href="#">Herreys</a>
<a href="#">1985</a>	ノルウェー	<a href="#">"La det swinge"</a>	<a href="#">Bobbysocks</a>
<a href="#">1986</a>	ベルギー	あこがれ <a href="#">"J'aime la vie"</a>	<a href="#">サンドラ・キム</a>

<a href="#">1987</a>	アイルランド	<a href="#">"Hold Me Now"</a>	<a href="#">ジョニー・ローガン</a>
<a href="#">1988</a>	スイス	<a href="#">"私をおいて旅立たないで"</a>	<a href="#">セリーヌ・ディオン</a>
<a href="#">1989</a>	ユーゴスラビア	<a href="#">"Rock Me"</a>	<a href="#">リヴァ</a>
<a href="#">1990</a>	イタリア	<a href="#">"Insieme: 1992"</a>	<a href="#">トト・クトゥーニョ</a>
<a href="#">1991</a>	スウェーデン	<a href="#">"Fångad av en stormvind"</a>	<a href="#">カローラ</a>
<a href="#">1992</a>	アイルランド	<a href="#">"Why Me"</a>	<a href="#">Linda Martin</a>
<a href="#">1993</a>	アイルランド	<a href="#">"In Your Eyes"</a>	<a href="#">Niamh Kavanagh</a>
<a href="#">1994</a>	アイルランド	<a href="#">"Rock 'n' Roll Kids"</a>	Paul Harrington & Charlie McGettigan
<a href="#">1995</a>	ノルウェー	<a href="#">"Nocturne"</a>	<a href="#">シークレット・ガーデン</a>
<a href="#">1996</a>	アイルランド	<a href="#">"The Voice"</a>	<a href="#">Eimear Quinn</a>
<a href="#">1997</a>	イギリス	<a href="#">"Love Shine a Light"</a>	<a href="#">カトリーナとザ・ウェーブズ</a>
<a href="#">1998</a>	イスラエル	<a href="#">"Diva"</a>	<a href="#">ダナ・インターナショナル</a>

<a href="#">1999</a>	スウェーデン	<a href="#">"Take Me to Your Heaven"</a>	<a href="#">シャロツテ・ペレツリ</a>
<a href="#">2000</a>	デンマーク	<a href="#">"Fly on the Wings of Love"</a>	<a href="#">オールセン・ブラザーズ</a>
<a href="#">2001</a>	エストニア	<a href="#">"Everybody"</a>	Tanel Padar、 Dave Benton & 2XL
<a href="#">2002</a>	ラトビア	<a href="#">"I Wanna"</a>	<a href="#">Marie N</a>
<a href="#">2003</a>	トルコ 	<a href="#">"Everyway That I Can"</a>	<a href="#">セルタブ・エレネル</a>
<a href="#">2004</a>	ウクライナ	<a href="#">"Wild Dances"</a>	<a href="#">ルスラナ</a>
<a href="#">2005</a>	ギリシャ	<a href="#">"My Number One"</a>	<a href="#">エレーナ・パパリズー</a>
<a href="#">2006</a>	フィンランド	<a href="#">"Hard Rock Hallelujah"</a>	<a href="#">ローディ</a>
<a href="#">2007</a>	セルビア	<a href="#">"Molitva"</a>	<a href="#">マリヤ・シェリフォヴィッチ</a>
<a href="#">2008</a>	ロシア	<a href="#">"Believe"</a>	<a href="#">ジーマ・ビラーン</a>
<a href="#">2009</a>	ノルウェー	<a href="#">"Fairytale"</a>	<a href="#">アリャクサンドル・ルイバーク</a>
<a href="#">2010</a>	ドイツ	<a href="#">"Satellite"</a>	<a href="#">レナ・マイヤー＝ラントルート</a>

<a href="#">2011</a>	アゼルバイジャン	<a href="#">"Running Scared"</a>	エルダル・ガスマフ & ニガル・ジャマル
<a href="#">2012</a>	スウェーデン	<a href="#">"Euphoria"</a>	<a href="#">ロリーン</a>
<a href="#">2013</a>	デンマーク	<a href="#">"Only Teardrops"</a>	<a href="#">エメリー・デ・フォーレスト</a>
<a href="#">2014</a>	 オーストリア	<a href="#">"Rise Like a Phoenix"</a>	<a href="#">コンチータ・ヴルスト</a>
<a href="#">2015</a>	スウェーデン	<a href="#">"Heroes"</a>	<a href="#">モンス・セルメルロー</a>
<a href="#">2016</a>	ウクライナ	<a href="#">"1944"</a>	<a href="#">ジャマラ</a>
<a href="#">2017</a>	ポルトガル	<a href="#">"Amar Pelos Dois"</a>	<a href="#">サルヴァドール・ソブラル</a>
2018	イスラエル	Toy	ネッタ

# 複数曲の優勝

- 1969年にフランス、スペイン、ドイツ、オランダ4か国が同点首位となり、それまで同点首位の場合の規定がなかったため4国が優勝となった。しかしその後は他国の抗議などもあり、同点首位の規定が定められ、優勝曲は1曲に限られている。



# 2018年大会

1	<a href="#">Ukraine</a>	<a href="#">MELOVIN</a>	Under The Ladder	130	17
2	<a href="#">Spain</a>	<a href="#">Amaia y Alfred</a>	Tu Canción	61	23
3	<a href="#">Slovenia</a>	<a href="#">Lea Sirk</a>	Hvala, ne!	64	22
4	<a href="#">Lithuania</a>	<a href="#">Ieva Zasimauskaitė</a>	When We're Old	181	12
5	<a href="#">Austria</a>	<a href="#">Cesár Sampson</a>	Nobody But You	342	3
6	<a href="#">Estonia</a>	<a href="#">Elina Nechayeva</a>	La Forza	245	8
7	<a href="#">Norway</a>	<a href="#">Alexander Rybak</a>	That's How You Write A Song	144	15
8	<a href="#">Portugal</a>	<a href="#">Cláudia Pascoal</a>	O Jardim	39	26
9	<a href="#">United Kingdom</a>	<a href="#">SuRie</a>	Storm	48	24
10	<a href="#">Serbia</a>	<a href="#">Sanja Ilić &amp; Balkanika</a>	Nova Deca	113	19
11	<a href="#">Germany</a>	<a href="#">Michael Schulte</a>	You Let Me Walk Alone	340	4
12	<a href="#">Albania</a>	<a href="#">Eugent Bushpepa</a>	Mall	184	11
13	<a href="#">France</a>	<a href="#">Madame Monsieur</a>	Mercy	173	13
14	<a href="#">Czech-Republic</a>	<a href="#">Mikolas Josef</a>	Lie To Me	281	6
15	<a href="#">Denmark</a>	<a href="#">Rasmussen</a>	Higher Ground	226	9
16	<a href="#">Australia</a>	<a href="#">Jessica Mauboy</a>	We Got Love	99	20
17	<a href="#">Finland</a>	<a href="#">Saara Aalto</a>	Monsters	46	25
18	<a href="#">Bulgaria</a>	<a href="#">EQUINOX</a>	Bones	166	14
19	<a href="#">Moldova</a>	<a href="#">DoReDoS</a>	My Lucky Day	209	10
20	<a href="#">Sweden</a>	<a href="#">Benjamin Ingrosso</a>	Dance You Off	274	7
21	<a href="#">Hungary</a>	<a href="#">AWS</a>	Viszlát Nyár	93	21
22	<a href="#">Israel</a>	<a href="#">Netta</a>	TOY	529	1
23	<a href="#">Netherlands</a>	<a href="#">Waylon</a>	Outlaw In 'Em	121	18
24	<a href="#">Ireland</a>	<a href="#">Ryan O'Shaughnessy</a>	Together	136	16
25	<a href="#">Cyprus</a>	<a href="#">Eleni Foureira</a>	Fuego	436	2
26	<a href="#">Italy</a>	<a href="#">Ermal Meta e Fabrizio Moro</a>	Non Mi Avete Fatto Niente	308	5

# 音楽は人をつなげられるのか

- レコ大などの賞レースは完全に硬直化している。
- 現在の音楽シーンは好みの細分化が激しいため、年齢を超えることはおろか、同世代でさえも同じ音楽を共有することができなくなった。
- 細分化の結果として、音楽に投資される経済的な資本が縮小し、作品の質の低下も懸念される。

# 音楽は人をつなげられるのか

- ネットは個人の嗜好で細分化を生んだ一方、国境を越えてつながることのできるインフラである。欧州、アフリカ、西アジアはこれによって音楽的につながっている。
- 日本も紅白やのど自慢は全世界に中継されており、Jポップ自体は国際的に共有された文化になりつつある。
- ネットで世界共有の文化コンテンツにするうえで、こうした世界的なコンテストはヒントになるのではないか。

<https://www.eurovision.tv>